

キョーリン製薬グループ 100年の歩み

経営基盤に関わる内容

<p>1931 杏林化学研究所設立</p>  <p>1923 東洋新薬社創業</p>	<p>1940 杏林化学研究所を 杏林製薬に改名 杏林薬品を設立</p>  <p>1947 岡谷工場開設</p>	<p>1960 1967 野木工場開設</p>  <p>1962 杏林化学研究所開設</p>	<p>1970 1977 中央研究所開設</p>  <p>1977 中央研究所開設</p>
---	---	---	--

<p>1992 杏林製薬・杏林薬品合併</p>  <p>1995 能代工場開設</p>	<p>2000 東証第一部へ指定替え</p> <p>2001 Kyorin USA, Inc.設立 (2020.3 解散)</p> <p>2002 Kyorin Europe GmbH設立 (2023.3 解散)</p> <p>2004 ActivX Biosciences, Inc. 子会社化(2023.3 解散)</p> <p>2005 東洋ファルマー(現:キョーリン リメディオ)買収 (後発医薬品事業参入)</p> <p>2006 純粋持株会社体制へ移行</p>	<p>2008 日清キョーリン製薬を吸収合併</p> <p>2010 売上高1,000億円達成 キョーリン製薬ホールディングスへ商号変更</p> <p>2012 キョーリン製薬グループ工場創業</p>  <p>2015 わたらせ創業センター設置</p> <p>2017 ジェイタスを吸収合併(診断事業参入) 高岡創剤研究所設置</p> <p>2018 キョーリン製薬グループ工場稼働</p>	<p>2022 東証プライム 市場移行</p> <p>2023 創業100周年 杏林製薬を吸収合併し、 事業持株会社体制へ移行、 杏林製薬へ商号変更</p>
--	--	--	--

戦略、 考え方

創業～1994年
研究開発・生産・販売機能をもつ企業基盤の構築

1995年～2009年
MIC計画
個性的で存在意義のある
健康貢献企業

2010年～2022年
HOPE100
社内外が認める健全な
健康生活応援企業

2023年～
Vision 110

杏林製薬は、「人々の健康に貢献したい」という想いのもと、1923年に東洋新薬社として創業し、注射薬の製造販売を始めました。1960年代には新薬の研究開発に向けた体制を構築し、現在に至るまで、オリジナル新薬の研究開発・製造・販売等を通じて、人々の健康に貢献してきました。そして2023年、当社グループは創業100周年を迎えました。これからも人々の健康に幅広く貢献する企業を目指して成長を続けます。

杏林製薬はこれまで重点領域の一つとして、感染症の研究を進めてきました。その中でキノロン剤の研究を行い、世界初のニューキノロン系経口抗菌剤「ノルフロキサシン(製品名:バクシダール)」を創製しました。同剤は、1980年米国メルク社へ導出、世界約140か国で発売されました。その後、「フレロキサシン(同:メガロシン)」「ガチフロキサシン(同:ガチフロ)」の開発を経て、今日「ラスクフロキサシン(同:ラスビック錠・点滴静注キット)」の販売を行っています。



製品の歴史

